

## 4 G空間情報を使う

### 4.1 情報を入手する

G 空間情報を入手する方法として、G 空間情報センターに登録された実データをダウンロードする、あるいは提供する外部サイトに移動してダウンロードする2種類の方法があります。

#### ① G 空間情報センター上にリソースがある場合

対象とするデータセットを選択し、データ表示画面で「詳細」をクリックするとプルダウンメニューに表示される「ダウンロード」ボタンをクリックします。または、「プレビュー」ボタンをクリックし、リソース詳細画面に表示される「ダウンロード」ボタンをクリックします。



リソースのダウンロードを行う際には、それぞれのデータセットの利用規約に同意する必要があります。利用規約を確認した上で、「利用規約を承諾する」ボタンをクリックします。

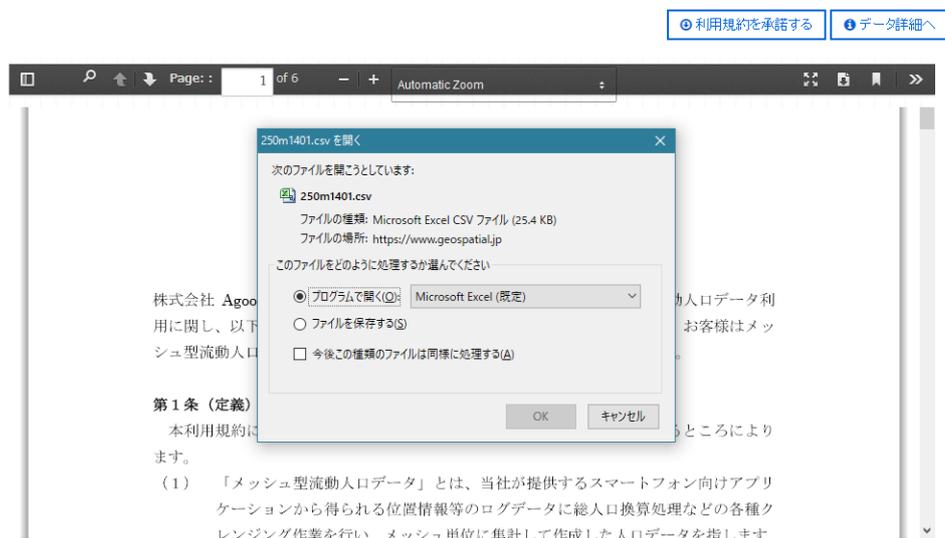


「利用規約を承諾する」ボタンをクリックした後ダウンロード画面が表示され、リソースをダウンロードすることができます。

## サンプルデータ

京都駅周辺のサンプルデータです。

以下の利用規約に同意した場合のみ、「利用規約を承諾する」をクリックしてください。



### ② 外部サイトにリソースがある場合

「8.1① G 空間情報センター上にリソースがある場合」と同様に対象とするデータセットを選択し、データ表示画面で「詳細」をクリックするとプルダウンメニューに表示される「ダウンロード」をクリックします。次に、利用規約を確認した上で「利用規約を承諾する」ボタンをクリックします。



注意:上記の例はG空間情報が入手できる例ではなく、提供されているG空間情報の利用規約が提示されたWebサイトに移動します。

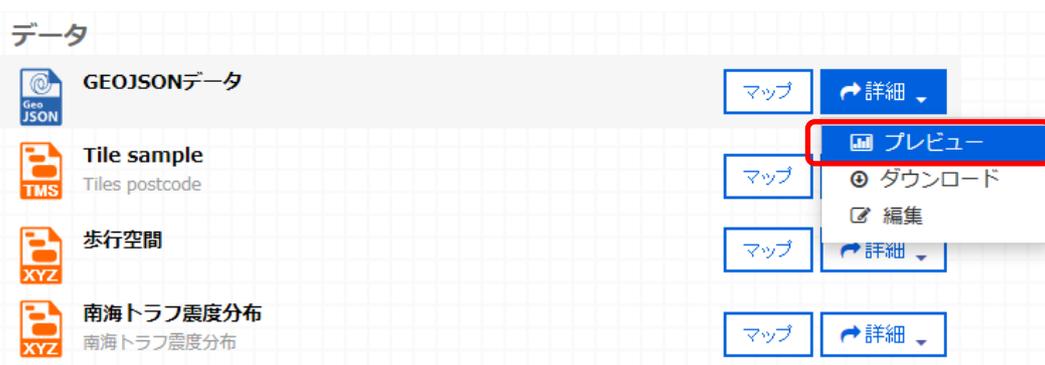
## 4.2 データの変換・編集をする

G 空間情報センターでは、登録された実データのベクタおよびラスターデータのフォーマット変換、地番などを位置座標に変換するジオコーディング、座標系付与、ならびに座標

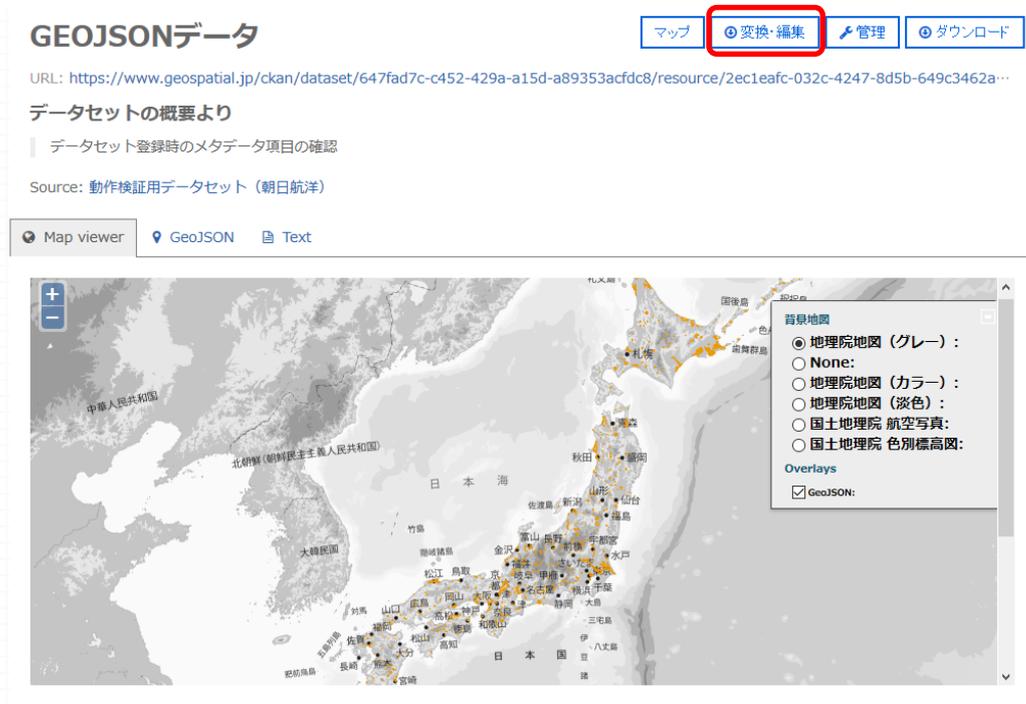
系変換を行うことができます。プラットフォーム上にあるリソースを別のサービスを介さずに変換・編集の処理を行うことができるため、より効率的にG空間情報を扱うことが可能です。以下では、GeoJSON 形式データの座標系変換と CSV 形式データのジオコーディングの例を示します。

### ① GeoJSON 形式データの座標系変換の方法

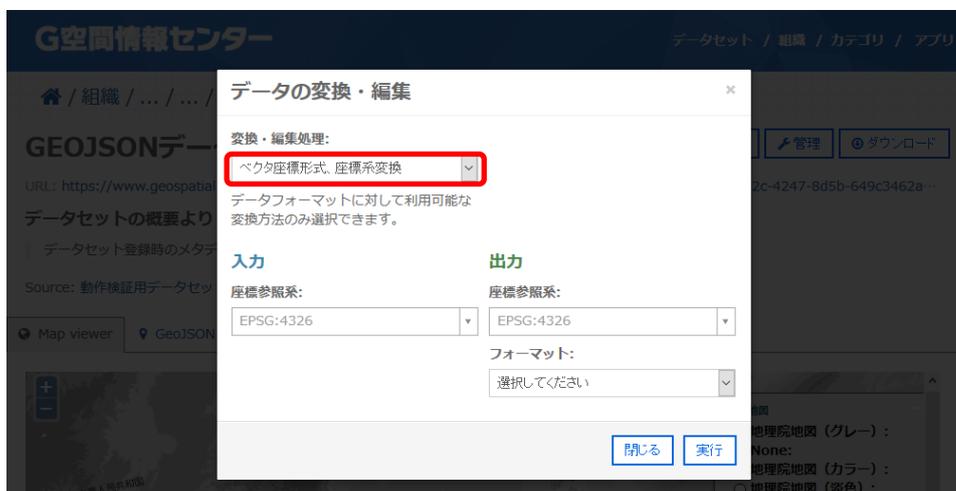
ログインしている状態で、変換・編集したい GeoJSON 形式のリソースの「詳細」をクリックし、プルダウンメニューに表示された「プレビュー」ボタンをクリックします。



「変換・編集」ボタンをクリックします。



「変換・編集処理」のプルダウンメニューをクリックし、“ベクタ座標形式、座標系変換”を選択します。



入出力のメニューが表示されたら、変換処理に必要な情報の入力を行います。

【入力情報として入力するもの】

- 入力元の座標参照系

【出力情報として入力するもの】

- 変換後の座標参照系とフォーマット

\*座標参照系は EPSG コードで指定します。

例:世界測地系 平面直角座標系第IX系の場合 EPSG:2451

EPSG に関する情報 <http://www.epsg.org/>

入出力ともに座標参照系を入力する際に、コードの一部を入力すると座標系の一覧が表示され、入力内容と合致している部分が太字で示されます。該当する座標参照系をプルダウンメニューから選択します。



出力したいフォーマットを選択し、「実行」をクリックします。



次に、ユーザアカウント作成時に入力した E メールアドレスを開きます。

ユーザアカウント作成時に指定した E メールアドレス宛に処理状況と処理した結果のデータをダウンロードする URL が送られてきます。この URL から変換後のデータをダウンロードして利用します。

## ② CSV 形式データのジオコーディングの方法

「8.2① GeoJSON 形式データの座標系変換の方法」と同様の手順で CSV データの変換・編集画面を表示します。「変換・編集処理」のプルダウンメニューから“CSV ジオコーディング”を選択します。



以下の各項目について入力を行い、実行ボタンをクリックします。

### 【入力情報として入力するもの】

- データタイプ：ジオコーディングに必要なデータの型を、“住所”、“駅”、“地名”、“公共施設”から選択します。
- 対象エリア：対象データの地理的範囲に合わせてプルダウンメニューからエリアを選択します。
- 座標参照系：対象データの座標参照系に合わせて“世界測地系”か“日本測地系”を選択します。
- アドレスフィールド：データタイプ項目で指定した型が含まれる列番号を数字で入力します。
- エンコーディング：プルダウンメニューから対象データのエンコード形式を選択します。

- オプション: 対象データの1行目にヘッダ行が含まれていない場合はチェックを外します。

#### 【出力情報として入力するもの】

- エンコーディング: 出力ファイルのエンコード形式を選択します。  
各項目の入力が終了したら、「実行」ボタンをクリックします。

データの变换・編集

住所: UTF-8

対象エリア: 全国 フォーマット: CSV

座標参照系: 世界測地系

アドレスフィールド: 1

住所を含む列番号 (一番左の列番号が1。複数ある場合はカンマ区切りで複数入れる)

エンコーディング: UTF-8

オプション:  1行目をヘッダ行とみなす

閉じる 実行

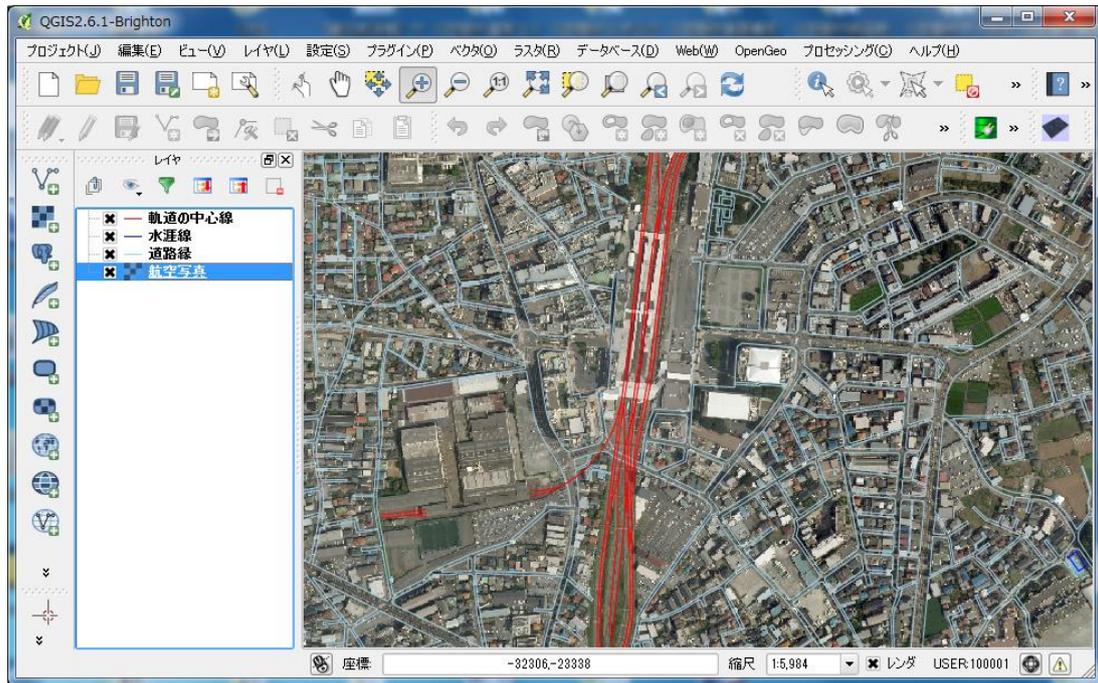
次に、ユーザアカウント作成時に入力した E メールアドレスのメールを開きます。

ユーザアカウント作成時に指定した E メールアドレス宛に処理状況と処理した結果のデータをダウンロードする URL が送られてきます。この URL からジオコーディングされたデータをダウンロードして利用します。

### 4.3 入手したデータを活用する

ダウンロードした G 空間情報は、利用者が持つ各種システムに取り込み、表示、処理や加工等を行うことができます。

ダウンロードしたベクタおよびラスターデータを、オープンソースソフトウェア QGIS を用いて表示している例を以下に示します。



覧を表示することができます。